

みんなの「わにカン（わになるカンパニー）」！！

— 「やりがい」精神を育てるキャリア教育実践 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

大阪精神医療センター分教室は、大阪府枚方市にあり、大阪または、その近隣府県のセンター医療を支える基幹病院である、大阪精神医療センターに併設された分教室である。本分教室に在籍している児童生徒は、発達障害の診断または、その傾向を有する児童生徒が多く在籍している。また、生育環境によりアタッチメントの課題も伴うことがあり、対人関係におけるトラブルが散見され、不登校や家庭内暴力、学校等での不適応行動につながっていることが多い。そのため、本分教室においては、病棟と連携した指導や支援方法を模索し、自立活動をはじめとした授業の研究や学校行事を主軸に表現活動を重視するなど、様々な実践を重ねてきた。（図1：これまでの取組み）

本分教室における教育活動は、児童生徒の病状や入退院の頻度により、継続的な集団活動の維持が困難な状況にある。しかし、将来の社会的自立を見据えたキャリア教育の重要性は、障がいの有無に拘わらず高まっている。

そこで、これまでの取組みに加えて、キャリア教育の視点を取り入れた新たな実践に取り組んだ。令和6年度から『わになるカンパニー』（以下、略称「わにカン」）という会社の仕組みを応用し、「総合的な学習の時間」を用いて年間を通した活動を行った。学校を一つの「会社」に見立て、児童生徒を「社員」と位置付けることで、他者の為に働く喜びと、組織の一員としての責任感を学ぶことができると考えた。児童生徒の得意なこと・チャレンジしたいことを主軸に、組織・チームとしての活動を通して「人のために働く」ことをテーマに様々な事業を展開した。本稿では、令和6年度、7年度に取り組んだ実践を、内容別に整理し紹介する。

- ◆令和元年
 - ・大阪府教育センターパッケージ研修「道徳」の授業研究
- ◆令和2・3年
 - ・アセスメントシート「わになるシート」研究
 - ・「わにタイム」（自立活動）授業開発、
 - ・「病棟と連携したコグトレをベースにした授業づくり」
- ◆令和4年
 - ・大阪府教育センターパッケージ研修「表現活動」
 - ・児童生徒の主体的な活動（行事、クラブ活動）
- ◆令和5年
 - ・児童生徒の主体的な活動（小中の交流活動、行事、クラブ活動）
 - ・他の分教室や外部企業等のオンライン交流

図1 これまでの取組み

2 総合的な学習の時間「わになるカンパニー」の概要

(1) ねらい

毎年、全ての児童生徒に対して、「わになるシート」という分教室独自のアセスメントシートによる担任面談を実施している。36の質問項目があり、毎年対象者全員のデータを統計的に処理し分析している。その結果、「人を大切に思う」という質問項目の結果が、毎年、小学生も中学生も高値を示していた。驚きを隠さない結果だった。学校や家庭でのトラブルにより入院している児童生徒が多い。しかし、この結果を受けて、児童生徒の根底にある人に対する優しさを、活動の中で形として引き出すことをねらいに据えた。

(2) 授業形態

①授業形態の工夫

小学1・2年の生活と小学3～6年・中学部の総合（1コマ）を、同日同時間（火曜日4限）に設定し、合同で授業を行った。また、週の1時間は、学年別で授業を行い、わに

I 実践報告

カンの事業と連動した活動を行った。

②活動の事業化・会社化と継続性

組織体・チームとしての活動を主とした。会社の経営をモデルに、組織として動くため、話し合いや調査、制作、発表、活動等を行う。また、入退院により児童生徒が変化しても、活動を続けられるように継続的な事業をめざすことにした。組織体制としては、中学部生徒を社長に、小学部児童を副社長に据え、異年齢集団による疑似的な会社組織を形成した。教員は「会長」等の立場で助言を行うが、基本的には児童生徒間の対等な協力関係と合意形成を重視する方針をとった。

(3) 活動の理念

①リーダーシップの育成

ある企業で若くして社長になった動画を見せて、児童生徒に対して、それぞれが、リーダーシップを発揮し、責任を持って活動することを伝えた。

その結果、児童生徒だけの話し合いから仕事や作業が誕生し、児童生徒の主体性が引き出された結果、事業が多岐に渡ったため、それぞれの事業を子会社化し、役割や責任を明確にし、児童生徒のリーダーシップを発揮する機会を確保した。

②他者のために働く感覚を知ること

本活動の根幹を成す理念は、これまで取り組んできた道徳、自立活動、表現活動を「キャリア教育」の観点と統合し、「人の心を動かすことが働くことである」との定義を提示し、主体的かつ能動的な活動につなげた。また、「人」のために働くことについては、具体的に誰なのかを考える話し合いを実施した。その結果、児童生徒からは、「分教室の子ども同士、病棟のスタッフ、保護者、本校の他部署の分教室の児童生徒のために働くんだ」との意見が出た。さらには、「自分のためかもしれない」と話す児童生徒もいた。

3 実践内容（事業展開）

令和6・7年度に取り組んできた、児童生徒が主体的に実践した内容について、次のとおり紹介する。

(1) 「わになるガーデン」事業（環境整備・栽培）

「わになるガーデン」と名付けた分教室前の広場の整備や、植物や野菜の栽培を行った。4つの子会社（「わになる朝顔」「わに湖建設」「わになる野菜センター」「わになるフラワー」）が創設された。

◆児童生徒が各々の特性に応じて、「虫好きチーム」と「虫嫌いチーム」に分かれて雑草を抜く場所を変えるなど工夫した。土掘りに興味のある児童生徒は、湖に似たてた土壌の掘削などを行った。雑草や土を触るのが苦手な児童生徒には、終わりの時間を計測し連絡を行う役など役割を分担して活動を行った。

◆野菜や植物の栽培では、土づくりやプランタ移動、種まきなど各工程を、わにカンや各学年の総合的な学習の時間に振り分け実施した。水まきや短時間で実施する水やりを児童生徒が自主的に行った。

◆プランタの配置やグリーンカーテンの設置場所、地植えをする場所などを、算数・数学的知見を使い計測し、配置図をパソコンで作成した。また、水道ホースの到達距離を計測して水撒き方法を考案した。暑い中での作業は、熱中症予防の観点から、時間を制限したり、水分補給を十分に行ったり、健康管理の意識が向上した。野菜や植物の生育方法などをインターネットで検索して調べたことを書面にまとめて掲示したり、児童生徒全員の前で説明したりするなどを行った。

◆病棟のスタッフや児童生徒の保護者、本校訪問部の児童やその家族、教員など、栽培した朝顔の種や収穫した野菜をお渡しする機会をたくさん設けた。受け取った方々からの感

I 実践報告

謝の言葉をいただくたびに、作業をするときの積極性は高まっていった。特に、他部署の分教室の心臓病の児童からのお礼の動画には、本分教室の児童生徒が、これまで見たことがない真剣な様子で視聴していた。その後、本分教室の児童から、自主的にお手紙などをその児童に渡してほしいと訴えてくることが増え、新聞やお手紙を通じた交流につながった。児童生徒の自己有用感の向上につながったと思われる。

(2)「わになるクリエイト」事業 (ICT 機器活用・広報)

分教室の行事で保護者等に配付するプログラムのイラストや、わにカンや子会社のロゴの作成(図2)を、絵を描くことが得意な児童生徒が活動を行った。また、ICT 機器を使ったポスターや動画を作成する活動にも取り組んだ。



図2「わになるカンパニー」のロゴ

◆校内の衛生管理を促進するため、手洗い啓発ポスターの作成を行った。小学生が描いた手書きのイラストを、ICT 機器に精通している中学生がデジタルツールを使いポスターにした。この企画では、普段は大人しい中学生だったが、イラスト関係の仕事に就くことをめざしていて、本活動では、小学生にとっても丁寧に優しく説明する姿がみられた。また、分教室の行事用パンフレットのイラスト作成では、これまでに絵をほとんど描いたことがない児童が、病棟で一生懸命描いてきたことは、大変驚きだった。自己表現における勇気ある一步を踏み出した児童の姿があった。

◆本校の学校保健委員会にて、小学6年生の児童が、普段の病棟生活や分教室での生活で、健康に気をつけていることについてまとめた動画の発表を行った。病棟での撮影では、児童が話し合っって作成した企画案を病棟師長に説明し、師長の許可のもと実施した。とても緊張しながら説明する姿があった。動画の撮影や説明を児童だけで行い、撮影した動画の編集作業も行った。動画を視聴した学校保健委員会に参加した学校医の先生からは、「大変わかりやすかった」「とても感動した」とのコメントをいただいた。後日、児童に伝えると、とても喜んでいて。地域校では集団活動が苦手だった児童がとても積極的に動画作成に参加することができた。本児童は退院後、地域校でクラスの活動に参加できるようになったと聞いた。

◆学期末に実施している分教室のお楽しみ会では、動画クイズ「ここわに・どこわに」を学部ごとで作成した。企画と編集を児童生徒が担当した。このクイズは、「児童生徒が演技している動画を見て、どこの場所を想像して演じているのか」を考え、場所を答えるもので、図書館や野球場、ゲームセンター、八百屋、病院、有名飲食店などが出題された。お楽しみ会当日、個性豊かに児童生徒が演技する動画を見て、大笑いする場面が何度もあり、児童生徒全員で楽しむことができた。

(3)「わーにーロボ」事業 (プログラミング行事)

プログラミング教材「プロロ」を使った病弱支援学校のロボットプログラミング選手権があり、地区予選や全国大会などが毎年オンラインで開催されている。相撲のルールを応用した対戦形式で勝敗を決める競技であるため、本分教室の児童生徒においては、勝ち負けにこだわり心理面が大きく崩れることを避けるため、これまでは大会には参加してなかった。しかし、教員が「わにカン」や自立活動等での活動の様子を見て挑戦させてみようかと決断し、令和6年度に、本分教室が「わにカン」チームとして参加することになった。中学生1名と小学生2名が、話し合いと試行を重ねてプログラミングを完成させた。近畿・東海・北陸地区予選で準優勝し、全国大会では、第3位という結果を残した。試合当日、分教室の廊下に大型モニターを設置し、わにカンチームが試合に登場するたびに、児童生

I 実践報告

徒と教員が集まり応援した。勝ち上がるたびに応援にも力が入り、大盛り上がりとなった。実は、プログラミングした児童生徒は試合当日退院していて、応援していた児童生徒の中には、作成した児童生徒のことを知らない児童生徒もいた。にもかかわらず、熱心に応援する姿や憧れを持った目で見ていた様子は、教員にとっては驚きであり、これまでの自立活動を中心とした様々な活動が実り、分教室の中に応援する風土が築かれたと確信できた瞬間だった。

この大会を見た児童生徒から、「自分たちもやってみよう！」との声上がり、分教室で校内大会の企画・運営をしてみようとなり、子会社として活動することになった。

◆教員より大会運営に関わる仕事を明記し、児童生徒の希望で仕事を振り分けた。競技場所の設置、撮影、競技審判、進行、対戦カードの仕組み、ロボットへのプログラミング入力などの競技に関わる仕事だけでなく、参加者への参加賞や表彰状を作成の仕事も担った。また、他の分教室の児童生徒にも参加を呼びかけるため、大会のポスター（図3）を小学6年生の児童が、タブレット端末のアプリを使って作成し、各分教室に配付した。

◆試合に参加するプログラミングする児童生徒は、自分で考えて試行錯誤し、他児に練習試合を申し込み、その結果をもとにさらに試行錯誤を重ねていた。論理的思考力と粘り強い課題解決能力の育成に繋がったと思う。

◆この活動により、教員より新たに在籍した児童生徒に、全国大会や校内の大会の話をするると、ロボットプログラミングへの興味関心が高まり、令和7年度にも取組みを継続することができた。

（4）その他の活動

生活技能の向上や専門技術の獲得をめざした活動や、他部署の分教室との積極的な交流を深める活動に取り組んだ。

◆子会社「わになるクリーン」…小学生を中心に、大阪府立支援学校の児童生徒向けに作成された冊子「お掃除検定」を使い、掃除の技術の習得をめざして学年ごとに練習し、試験を実施した。合格した児童にとっては、相当な自信になったようで、分教室の廊下等の掃除を積極的に行うようになり、令和6年度の学習発表会において、観覧に来ていた保護者や病棟スタッフの前で、掃除技術を発表し、大きな拍手をもらった。

・お掃除検定の実施：清掃手順を標準化し、検定形式にて技術の習熟を図った。合格証の授与を通じ、技能に対する矜持を抱かせた。

◆「わにカフェ」…小学5・6年生及び中学生の家庭科と連携し、病棟スタッフへのおもてなしとして、お茶を振る舞うカフェを病棟の調理室を会場に活動を行った。接客マナーの習得と、憩いの場の提供を目的としたカフェ開設として、献立の考案からお茶の提供までの工程に至るまで、児童生徒で話し合った。

◆子会社「わになる折り紙」「わにますシート開発」…他部署の分教室に在籍している児童生徒への入院生活への励ましなどを目的に、児童生徒が病棟で自主的に製作した折り紙をプレゼントする活動を行った。病棟で折り紙の本を読み、毎日製作して届けてくれる児童や、100を超える工程数の折り紙を製作してきた児童など、病棟での生活時間を活動に充

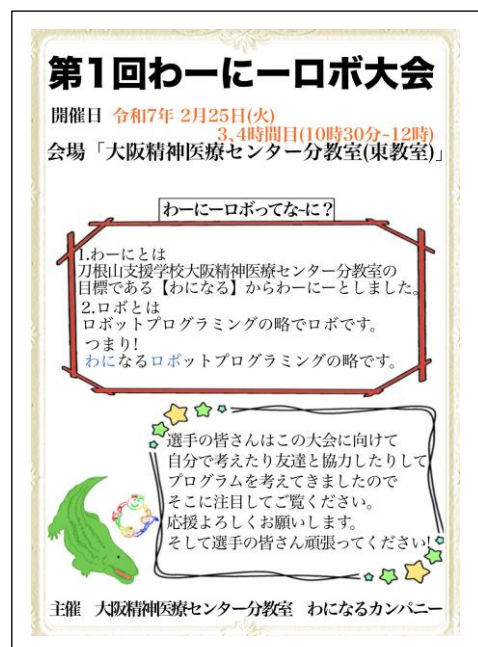


図3 校内大会のポスター

I 実践報告

てる児童がいた。

また、本分教室の自立活動「わにタイム」での遊びを、卓上版にアレンジした「わにますシート」を児童が製作した。パソコンを使いシートを製作し、机の上で楽しめるような大きさを考え、何度も試作を行い完成させた。遊び方の解説書も作成し、他部署に配付し遊んでもらった。病状によって教室を自由に移動できない児童生徒のことを考えて、少人数で遊べるように工夫した。そのことで本分教室でも、新たに在籍した児童には、少人数の授業の際には、「わにますシート」を活用に遊び方を学んでおくことで事前学習としての効果を発揮し、自立活動の集団授業で実施した際にはスムーズに参加できることがあった。

4 考察

授業が始まると、分教室の廊下はとても静かになる。各教室からの教員の声や、児童生徒の歌声や笑い声が爽やかに響いている。数年前にはなかった日常が当たり前になった。そして、朝、登校し朝の手洗いを済ませた一部の児童生徒が緊張した顔で職員室にやってくる姿が増えた。その理由は、「折り紙で作った作品を持ってきた」、「わにカン子会社の新規事業の提案のメモや資料を説明しにきた」、「子会社の社長になりたいと伝えにきた」、「会社のロゴやポスターを描いてきた」、「自立活動の新たな遊びを提案しにきた」と伝えることだった。分教室の廊下の壁面は、彼らが描いた絵やポスターで溢れている。ここ数年で急激に増えた。表現の場がここにはある。

本実践を通じた成果として、本校のキャリアマトリクスに位置付けている基礎的・汎用的能力のうち、特に「人間関係形成・社会形成能力」及び「課題対応能力」に顕著な変容が認められた。変容の源泉は、他者を思う優しさに加えて、自己理解の変容である。当初、自身の生存にすら悲観的な言葉を吐露する児童生徒が、「社長」としての重責を担う中で「役割があること」に喜びを見出し、活動に邁進する姿は、キャリア教育の本質だと言える。また、意思決定が高度化してきている点も忘れてはいけない。活動の方針や課題への解決策を見出すための話し合い等の活動は大幅に増えた。対話を通じて意見を統合する過程は、民主的な社会参加の縮図となったとも言えるかもしれない。

そしてもう一つの成果は、本活動の課題とも言えた入退院により児童生徒が入れ替わる中であっても、分教室の活動として連続性を維持できたことだ。例えば、現代社会における先の見通せない状況と同じ環境下で、流動的に発展的に組織を運営していくことができたとも言えるのではないか。リーダー役を務めた児童生徒を見てきた児童生徒が、憧れをもち、次は自分だと責任感を持ち仕事を引き継ぐ姿が多くあった。会社運営と同じように、欠勤（欠席）や退職（退院）という不可避な状況があっても、組織全体で補完し合うシステムを構築できたとも言える。そして、新しい仲間が来ても、誰もがその個性を受け入れ、認め合う文化を児童生徒が作り上げた。これは、この分教室という小さい世界で、多様性を尊重する共生社会のモデルとなったと、大袈裟な表現とは言えない現実があった。

5 最後に

「わにカン」の活動では、教員の根気が試されたと思う。児童生徒に話し合いをさせると、当然のように意見の相違から、言い合いやケンカになることもあった。しかし、それも含めてキャリア教育、自立活動における学びの機会として、教員による支援は極力小さく留めた。このことで、児童生徒が自立的に話し合うようになり、目的を達成するために、

I 実践報告

それぞれができることに集中して取り組めるようになった。

以前、授業の中で「将来仕事をしたいですか？」と聞いたところ、「仕事はしたくないけどアルバイトはしてみたい」と話す児童生徒が多かった。そこで、令和6年度の2学期に小学6年と中学生に、「アルバイトをするために必要な力って何？」と聞き、話し合ってもらい、表にまとめてもらった(図4)。すると、児童生徒がこれらの力は今の自分たちにも必要だと気づき、表のタイトル内に「日常」が加わった。まさに、キャリア教育とは日常の積み重ねにあると、児童生徒から教わった。この表は、各教室に張り出し、日々の授業の中でも意識できるようにしている。

令和6年度の2学期に在籍していた小学6年の児童6名に、「わになるカンパニー」での活動を通して感じたことを言葉にもらった。その言葉を元にして、「わになるカンパニー」のテーマソングを教員が自作した。曲のタイトルも小学6年の児童に考えてもらい、「みんなのわにカン」となった(図5)。

歌詞にもあるが、わにカンは、給料という対価はなく、他者の為に働く「GOOD JOB」の精神でお互いを認め合う場である。また、正解のない問いに対し、仲間と協力して最適解を模索する経験は、児童生徒の心に深く刻まれたと思う。令和7年度の2学期の授業中、全体での作業を終えると、小学6年の児童が『『やりがい』が給料やな!』と発表してくれた。退院後、地域校に戻った児童生徒が、新たな場所で『『やりがい』を見つけて、将来大人になり、本当の「社長」になっていたなら、こんな素敵な話はない。

さて、この原稿を書いている間にも、新たなプロジェクトが動き出している。それは、「分教室に少しでも登校してほしい」という中学生の思いから生まれた、登校するごとにポイントを付与するというアイデアだ。その記録を書き留める「わにさんポイント手帳」の開発に至った。令和7年度の3学期に試行し、令和8年度から本格導入する予定だ。開発した生徒は、来年度は高校生のため、その思いは、わにカンの歴史は引き継がれる。

起立!礼!「わになるカンパニーを、今後ともよろしくお願いします!」

バイト・日常に必要な力		回数	2回目
1	相対力 相対力	困るときに言う・聞くことができる	
2	行動力	言われたこと、思いついたことを、することができる	
3	記憶力	言われたこと、学んだことをおぼえることができる	
4	コミュニケーション力	はにかみすぎないように、人をはなしたりさいたりできる	
5	続けて学ぶ力	あきらめずに続ける	
6	体力	最後までしごとや生活ができる体力	
7	精神力	心の体力	
8	切り替える力	気持ちを立て替えてやることはやるんだ!!	
9	想像力	相手の気持ちを考えることができる	
10	集中力	1つのことをがんばることができる	

図4 バイト・日常に必要な力 チェックリスト

♪みんなのわにカン♪

わにカンって どんな授業ですか
いそがしい たのしい
協力しなきゃいけない 仕事をするぞ
わになるぞ 火曜日 4時間[Em]目
みんなのために
いろんな病気苦しむ ともだちのために

植物育てよう (わになるガーデン!)
お掃除検定 (わになるクリーン!)
掘削 土ほり (わに湖! わに湖!)
雑草ぬけばZかい (ちょこZ!)

働こう 働こう
みんなで 作ろう 育てよう
もうちょい がんばろう がんばろう
おなかは ぐーぐーなるけど
Good Good Good Job!
働こう 働こう
みんなで 作ろう 育てよう
わにカン つながろう 広げよう
笑顔が あふれる 会社
わになるカンパニー

給料はないけど
正解はないけど
社長は 中学生
副社長は 小学生

Go To The Top Company
Go To The Top Company
わにカンの意味は わかったかな?

図5 「みんなのわにカン」の歌詞